

## 巻頭言 権利擁護と介護支援専門員

社会福祉法人 呉市社会福祉協議会 地域福祉課長 平 林 造



「権利擁護」という言葉が注目され始めたのは、2000年（平成12年）に介護保険サービスが開始されてからです。サービスが、措置からサービス提供者との契約に移行し、利用者が自由にサービスを選択出来るようになりました。しかし、判断力が低下して、一緒に考えてくれる人がいない場合などには、必要なサービスの選択・決定や、契約ができなくなってしまう。つまり、高齢者が「自己決定権」を待っているだけでは、尊厳ある生活や人権・権利を守ることができないということです。

この予測された問題を回避するため位置づけられたのが、皆さん介護支援専門員です。つまり、制度設計の時点から権利擁護の視点が織り込まれていたわけです。さらに、介護保険の制度上だけでなく、在宅生活で起こり得る金銭搾取や虐待などの権利侵害を発見する機会が多いのも介護支援専門員であり、関係機関や行政担当課へ適切につながりということも求められます。

現在呉市では、呉市社会福祉協議会権利擁護センターが、呉市における権利擁護業務の中心として、行政、専門機関・団体、裁判所等と連携・協働しながら、権利擁護支援の地域連携ネットワークにおける中核機関として運営されていますので、権利擁護に関連して不明な点があればご相談ください。

権利擁護センターに寄せられる相談のうち、よく誤解されているなど感じるものが『後見人は、被後見人の「保証人」だと思われがちなこと。』です。本人の代理として契約を行うことは可能ですが、皆様と同じように権利擁護のための代弁者で、あくまで本人の「代理人」ですので、ご注意ください。

介護支援専門員の業務には、相談の受付からモニタリングまでの、全ての過程で、利用者の意向と利益を最大限確保するということが求められますが、そのための視点の一つに「権利擁護」があげられると考えます。

しかし、特にプラン立案の場面において、本人の

権利擁護をしているつもりで身の安全などの「生きる権利」に重点を置きすぎたマネジメントを行い、実は利用者本人の自由な選択や参加の機会などの権利を侵害してしまうことがあります。例えば、本人が危機感を持たないまま、飲酒喫煙やギャンブルにのめり込み、借金を繰り返して、身体的、経済的にも社会生活が出来なくなってしまう。生活上の支援として制度やサービスを導入したが、生活態度を改めることなく支援についても拒否的。借金の返済で困窮し、利用料の支払いも困難。といったケースは、実際に業務に携わってきた介護支援専門員なら、一度や二度は出会ったことがあるかと思います。

このような自分のことを顧みない行いを「愚行」と言います。愚行には、適切な運用で幸福感が得られる利点はあるものの、一般に脱線しがちで、利点以上の不利益を被りやすくなります。自分で自分の首を絞める行為であり、違和感や嫌悪感を抱く方も多いと思います。ですが、端から見れば愚行であっても、本人にとっては重要な自己実現の手段である場合も多くあります。そうであるならば、公序良俗に反しない限りはその思いを最大限受容し、手助けすることも一つのあり方と言えるのではないのでしょうか？

判断能力が低下したり、無くなってしまった方の自己実現をどのように担保するのか？意思疎通が出来ないのに、どうやって本人意思をくみ取るのか？

ここで重要になってくるのが、皆さんが日ごろから培っている関係性、つながりを元にしたアセスメントだと考えます。その普段の積み重ねが、課題解決の一助になり、本人の自己実現のきっかけとなり得ます。「どうせ」や「やっぱり」と、過去の経験からの決めつけで済まさず、「何とかならないか」や「どうやったら」といった、利用者に対して前のめりな思考で、利用者の最大利益と自己実現のために取り組んでいていただければと思います。

# 呉市中央地域キャラバンメイト連絡会の活動報告



呉市中央地域キャラバンメイト連絡会 会長  
深川医療器株式会社呉営業所 ライフケア呉  
管理者 高橋 利久

一昨年からのコロナウイルスに加え、ロシアによるウクライナ侵攻が起こり、二つの不安要素に伴う株価の乱高下・原油高に起因するインフレ加速など大きな不安に未だ世界中が覆われています。ウクライナ紛争による死者は10万人以上にのぼると言われており、心より早期の解決と亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

さて本題になりますが、去る令和4年9月17日にIHIアリーナ呉（呉市体育館）で「第3回物忘れ・介護無料相談会～みて呉・きて呉・よって呉～」を関係各位の協力により2年ぶりに盛況のうちに終了することができました。これは9月のアルツハイマー月間をきっかけに呉市中央地域キャラバンメイト連絡会の目的である『住み慣れたこの“呉”の街で認知症になっても安心して暮らせる私たちの“呉”を目指すため』の活動の一環として開催されたものです。

当日は午前9時から午後16時まで各ブースにて相談、体験等を通してできるだけ多くの市民の皆さまにとって有意義なイベントになるようにスタッフ一同対応させていただきました。各ブースは以下の通りです。



## 【ブースのご案内】

- ・受付(感染対策のため手指消毒や検温や記名)
- ・相談対応◇主任介護支援専門員対応：呉市中央地域包括支援センター・呉市宮原・警固屋地域包括支援センター・呉市認知症地域推進員
- ・物忘れ相談プログラム◇脳の健康チェック：ほうゆう病院・認知症初期集中支援チームひなた
- ・認知症予防と運動：公益社団法人広島県理学療法士会呉支部
- ・作品展示：かがやき・べたにあ・常楽園・呉ベタニアホーム長迫・九嶺
- ・高齢者の食事：宅配クック123(午前と午後30分程度ミニレクチャーあり)
- ・脱水症(熱中症)予防と対策：大塚製薬工場(午前と午後30分程度ミニレクチャーあり)
- ・紙オムツの使い方：ユニ・チャーム(午前と午後20分程度ミニレクチャーあり)
- ・機器を利用しての見守り：テクノスジャパン(午前と午後20分程度ミニレクチャーあり)
- ・排泄予測機器：トリプル・ダブリュー・ジャパン(午前と午後20分程度ミニレクチャーあり)
- ・福祉用具展示：深川医療器
- ・キッチンカー：sora café ソラカフェ

(順不同、敬称略)





【物忘れ相談プログラムコーナー】



【物忘れ・介護相談コーナー】



【ミニレクチャーの様子】



【作品展示①】



【作品展示②】



【作品展示③】

以上の12ブースにて、67名の方にご来場いただき無事終了しました。  
 この相談会にご参加いただいた皆さまにとって有意義な時間であれば幸いです。  
 今後も『認知症になっても安心して暮らせる街“呉”』を実現すべく、  
 キャラバンメイトのメンバーや同じ思いをもった方々と主体的に楽しく啓発活動を行なって参ります。

令和5年も開催予定ですので是非共、皆様の幅広いご理解・ご協力 併せてご参加のほど何卒  
 よろしくお願い申し上げます。

===== 呉市中央地域キャラバンメイト連絡会 =====

【理念】

- ・認知症になっても安心して暮らすことができる街，呉を実現する
- ・認知症利用者（本人・家族）の主体性を尊重する
- ・各専門職が地域社会に自発的に考え，行動し貢献する

【方針】

- ・楽しく，和気あいあいとした関係性のもと建設的な活動をする
- ・認知症の正しい理解を市民に広める
- ・キャラバンメイト自身の成長を促進する
- ・次世代の人材を育てる
- ・行政，関係団体，事業所，住民組織あらゆる人と連携する
- ・多様な媒体を利用し情報発信をする



(活動にご興味がおありの方は歓迎いたします 高橋までお問合せください)



## 新規事業所紹介

サービス付き高齢者向け住宅 ラ・ポーズ  
平本 敦大



株式会社 NOV-cure の平本と申します。当社は薬局運営を母体としており、この度サービス付き高齢者向け住宅ラ・ポーズをオープンする運びとなり、同施設内に居宅介護事業所ラ・ポーズ、訪問介護事業所ラ・ポーズも併設させていただきました。

当施設は特養や病院ではなく、サービス付き高齢者向け住宅ですので、「自立」という言葉を優先して、一人では難しい部分を手助けすることが基本となります。入居されている方の思いを大切に、自分らしく、安心して過ごしていただけるように心がけています。

その思いが施設の名前の由来にもなっており、ラ・ポーズとはフランス語で「憩いの場」を意味します。入居者様にとって、癒やし、憩いの場に思っただけのようにという思いが込められています。建物自体も「施設らしくない」と言ってくださることがよくあります。デザインや壁や床の色合い一つひとつ熟考し、サービス環境だけでなく空間からも安心を感じてほしいと想っていたので非常にうれしいです。

憩い、安らぎ、安心は入居者様だけではなく、そのご家族様にも感じていただく必要があります。コロナウイルスの猛威によりご家族との面会も気軽にできなくなってきています。館内はFreeWifiを完備しており、希望があればタブレットをお貸ししてサポートしながらビデオ通話をしていただくことも可能です。さらに感染対策も非常に重要になってきていますが当施設は薬局が母体ということもあり環境衛生対策にも重点を置き、入館時の体温測定、手指消毒はもちろんのこと、熱交換換気システム(ロスナイ®)を完備し、常に空気が循環して入れ替わるようになっており、二酸化濃度は喚起の指標にしかありませんが500ppm以下になるように設定されており、エレベーターも非接触タイプのものを採用し感染対策を行っています。

当施設は厨房も完備しており、大量調理施設衛生管理マニュアルに準じて自前で調理しております。そのままお弁当として販売してもいいくらい、食事当施設の誇れる自慢の一つです。

まだ稼働し始めたばかりで不手際も多くあり、皆さまにもご迷惑をおかけすることと思っておりますが、地域に根ざし、地域の皆様に愛される施設を目指して一歩ずつ確実に歩みを進めていきたいと思っております。





# 街のナースステーションを目指して

## ～看護ステーションゆう～



管理者兼統括責任者

福田 文

2023年1月より『看護ステーションゆう』を開設いたしました。職員は、看護師・理学療法士が協力し、サービスの提供をしていきます。

『看護ステーションゆう』は、利用者や地域の方々とのかかわりを大切にしたいという思いが由来となっています。「友・有・優・結・悠・勇・遊・由・祐・YOU…」このような漢字や言葉のように在りたい、皆様から親しまれるステーションになるように、平仮名の「ゆう」としました。

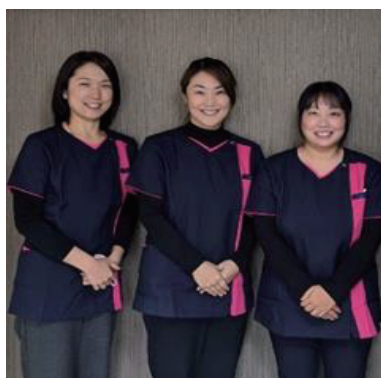
「志を同じくする仲間とともに優しさを忘れることなく、多くの方々につながりを持ち、心のより所として気長に愛される街のナースステーションのような存在」にしていきたいと思っております。

また、開所時よりご利用者やそのご家族、介護支援専門員、相談員、主治医の先生方と関わることができ、感謝しております。

利用者の気持ちのこもった『ありがとう』の言葉を励みに頑張ることができ嬉しく思っています。病気や障害をもった方々が、住み慣れたご自宅で自分らしく前向きに生きる力強さを学ばせていただき、たくさんの経験や財産をいただいております。

まだまだ未熟なところがたくさんありますが、一人一人にしっかりと向き合い、笑顔で真心のある温かいサービスを届けていきたいと思っております。

今後は、地域の医療・福祉の発展のために、地域住民の皆様に近い存在として「看護ステーションゆう」を活用いただくことができますよう、地域に密着できるよう精進して参りたいと思っております。



スタッフ紹介：左から黒岩・福田・前田

身体症状だけでなく気持ちにも寄り添いながら関わりを持たせて頂きたいと思っております。未熟な部分があるかと思いますが、努力していきますので、これからもよろしくお願いいたします。(前田Ns)

在宅でのリハビリテーションでは「運動がしたいけど何をしたらよいかかわからない」「転ばないように生活したいといった状況や「病気の後遺症を改善したい」「これ以上悪くならないようにしたい」といった状態でも利用ができます。ぜひご相談お待ちしております。(PTスタッフ)



「ゆう」の志として名札裏に入れてあります

気持ちに寄り添い、少しでもその方らしく過ごせるお手伝いが出来たらと思っております。ご利用者様、ご家族様の心が軽くなりますよう努めてまいります。(黒岩Ns)

お気軽にご相談  
ください





## はたらく母さん看取り奮闘記 VOL.2



呉市役所/スナックレモネード医療部  
前野尚子

この記事は、私が約5年前(2017年)に実父を在宅で看取ったときに記したブログです。当時は、小・中・高生を抱え、公務員として働くワーキングマザーであり、車いすで一人暮らしの実父の終末期に直面していました。できれば最期は自宅でという思いを叶えるべく奮闘した様子を綴っています。家族の看取りに直面している方や関係者の方々にとって何かの参考になれば幸いです。

### 2017年1月28日「ストレスの解消法とは」

この土日は、担当業務のイベントが続いて、ほとんど出勤です。こんな時に、夫がインフルエンザでダウン。つまり、当てにしていた家事戦力は得られず(失礼!)、すべて私がこなすことに…。加えて!入院中の父から再三の催促電話がこんな感じでかかってくる。

「海苔巻きあられはいつ持ってきてくれるのか?(先週から言ってるだろ!)」→(ごめん、完全に忘れてます。)



「腕時計が動かん。取りに来て、時計屋にもっていってくれ。時間がわからん!」→(勘弁してよ～、今週は仕事で行くの無理なんだって～～～(泣))

「実家に行って、かんぽ生命の証書を探して持ってきてくれ(財産整理したいから!)」→(病院にさえ行けないのに、実家なんて行けるわけじゃないじゃん?)

「デントライオン 2本買ってきて。」→(とほほ。)

足が不自由で、肝臓がんを患う父。現在は比較的状态が落ち着いているのと、認知症はないのは、ありがたいことです。しかし、いくらもう余命宣告されていると言っても、わがままで支配的な性格には家族も辟易。仕事と家庭と介護でがんじがらめで最近私の気持ちもトーンダウン…。子供たちとゆっくり美味しいものを食べる時間もなく、塞いだ気分です。

そんな中、仕事帰りにぶらりと寄った雑貨と洋服のお店。ムーミンのキャラクターをモチーフにしたピアスと、ピアスケースにとガラス容器を購入。幼少期にムーミンを見て育った世代にはグッとくるものがあります。自宅の鏡台の上に飾ってみました。こういったものを手元において眺めるだけで気持ちが和みまます(我ながら、女子ですね(#^^#))。ささやかなストレス解消法。このピアス、つけてみるとゆらゆら揺れていい感じ。明日はこれをつけて頑張ろう。

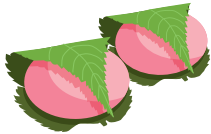


そういうば、今日、仕事でお世話になっている方から言われた言葉。

「親の介護、特に看取りは、振り返った時に、『総じて良かったのではないか。』と思えるくらいにしときなさい。完璧を目指して、娘が犠牲になることは親も望んでいないよ。」

涙が出そうになります。人生の先輩に感謝です。「親子」とか、「夫婦」とか、近いつながりももちろん大事ですが、身近な人たちとのゆるゆる～いつながりに助けられていると実感した日でした。こういった人との「出会い」があることってうれしいことですね。

## 地域共生社会の実現に向けたバンド活動



呉市安芸灘地域包括支援センター  
齋原 哲也

私の生まれ育った安浦町女子畑は呉市の最東端の小さな集落です。小学校も 12 年前に廃校になるなど、寂れていく地域を盛り上げようと、近所の後輩たちに声をかけ、「オナゴバターズ」というバンドを結成しました。地域の皆さんを音楽で笑顔に！を合い言葉に、お寺のお説教の間や、秋祭り、障害・児童 NPO のハロウィンパーティーなど、子どもからお年寄りまで様々な場にお邪魔して演奏活動を続けています。

私はドラム担当ですが、下手です。演奏技術も大切ですが、何よりも楽しく演奏することを心掛けています。演奏前はいつも緊張しますが、それを表に出さないように「笑顔」で楽しく演奏しています。音楽で地域の様々な方々と、「我がこと丸ごとみんな笑顔！」これが地域共生社会づくりの一助になるのではないのでしょうか？かなりのこじつけですが（^\_^;），共に支え合い喜び合える社会にするためには、まず自分自身が笑顔になれることを、地域の中で、無理せず楽しみながら続けていくことだと思います。

ちなみに、私以外のメンバーは皆ビジュアル系イケメンで、それも売りのひとつなんです。最近、女子畑の本木雅弘といわれていたボーカルのヤスヒロが、なんだか宇梶剛士に見えてきて心配です。もっくんか？宇梶か？気になる方は YouTube で「オナゴバターズ」と検索してみてください！

## 「ひとりケアマネとして思うこと」



ケアプランわかば  
柳原 史子

ケアマネになり 22 年、独立型一人居宅を立ち上げて早くも丸 12 年が過ぎました。「地元の強みを活かして、地域に寄り添ったケアマネになりたい」と、独立開業しましたが、一人ケアマネとして働く中で動きやすい部分もある反面、困難な壁に当たり仲間の大切さや一人なりの困難さも経験しました。

ケアマネ業務以外でも、会社運営の業務や雑務といった慣れないこともこなし、また 3 年に一度の法改正ではパソコンとにらめっこし頭を抱えながら……。毎日が仕事中心の生活になるなど今振り返っても慌ただしく走り抜けてきたと思います。

それでも何とか今まで続けてこられたのは、やはり私個人に依頼して下さった利用者さんへの信頼に応えたいというその思いのみだったからだと思います。

福祉業界は変化も多く、難しいこともあるとは思いますがこれからも一人居宅として自分の歩幅で歩いていこうと思います。

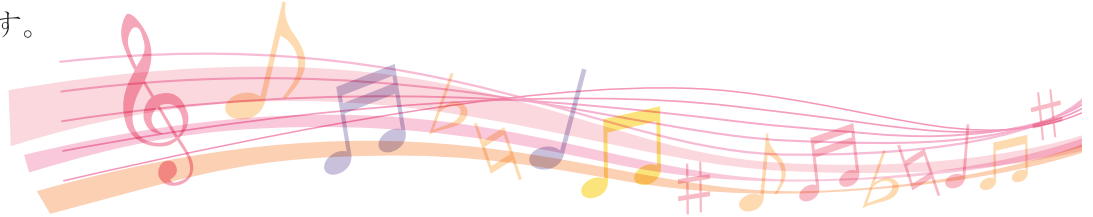
## 事務局だより

季節を通り越したほかほかとした暖かさが続いており、のんびりしたいところですが、あっという間に年度末がやってきます。

毎日が忙しく、ものすごいスピードで流れていきますが、やることはしっかりとやっていかなければならないと、改めて思う今日この頃です。

さて、新年度になると、介護支援専門員の新規加入・異動等があると思います。

後日、会員入会のお願いをお送りいたしますので、会員の継続と新しい介護支援専門員に入会の声かけをお願いいたします。また、職場等の変更がある場合は、変更届の提出をお願いいたします。



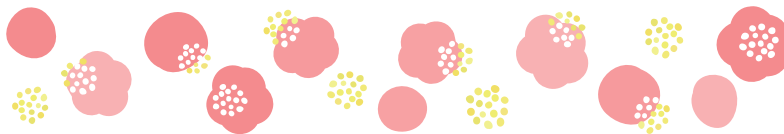
## 編集後記

早いもので令和4年度ももうすぐ終わってしまいます。

この3年コロナに振り回され、良くも悪くもこれまでの『あたりまえ』や『価値観』が変化したことを日々感じます。

5月には新型コロナウイルス感染症が5類になることや当協議会の活動幅が広まることなど、令和5年度という新しいステージが始まることに期待半分・不安半分です。

何はともあれ、自分や家族が健康であってこそできることばかりです。会員の皆様、くれぐれもお身体を大切に、時に休養を取りながら、これからも一緒に頑張っていきたいと思います。



舛谷 御幸

## 私たちが主婦の目線でお手伝いいたします



☎ 0823-33-8810

荒井

草刈り  
不用品処分

外出同行  
通院介助

夕食の支度  
部屋の掃除

空き家管理  
遺品整理

おかげさまで  
開業7年目!

合同会社  
にじいろカンパニー

〒737-0915

呉市押込4丁目16-5

発行責任者 宮下 勝則  
広報委員長 竹中 敦子  
広報委員 舛谷 御幸  
梶川 清治

小川 ひろみ  
生馬 聡子

藤田 真紀

事務局 〒737-0051 呉市中央5-12-21  
呉市福祉会館 1階  
呉市社会福祉協議会内 担当: 向井  
TEL:0823-32-3510  
FAX:0823-32-2443